

監督・脚本 ■ 有原誠治

ナレーター ■ 小林桂樹

声の出演 ■ 伊藤健太郎 (秋月辰一郎) / 大川慶子 (村井すが子)

製作 ■ 「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」製作委員会

製作協力 ■ 「アンゼラスの鐘」製作を支援するナガサキの会

参考文献 ■ 「長崎原爆記」「死の同心円」秋月辰一郎著

「夏雲の丘一病窓の被爆医師」山下昭子著

音楽 ■ 小六禮次郎

美術監督 ■ 中村光毅

キャラクターデザイン・作画監督 ■ 小野隆哉

アニメーション制作 ■ 虫プロダクション株式会社

響け！
希望の鐘

長編カラーアニメーション映画

NAGASAKI 1945

アンゼラスの鐘



文部科学省選定
厚生労働省社会保障審議会特別推薦
長崎県推薦
長崎市推薦
長崎市長会推薦
長崎県町村会推薦
広島県知事推奨
広島市推薦
日本医師会推薦
日本看護協会推薦
日本原水爆被害者団体協議会推薦
[社]企業メセナ協議会認定
中小企業家同友会全国協議会後援

支援 文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS



NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘

被爆青年医師・秋月辰一郎と仲間たちの40日間の苦闘

ナガサキから世界へ届け！被爆地の願い・・・

原爆の悲劇は長崎で終りにする。

「平和のために原子爆弾の実相を世界の人々に伝えなければならない。それがこの目で急性原爆症の実体を克明に見てきた者の責任」。映画のモデルであり、参考文献「長崎原爆記」「死の同心円」の著者・秋月辰一郎さんの言葉です。治療を十分に施すことができないまま多くの人を死なせてしまった医者としての悔恨が、その後の秋月さんを被爆者医療、核廃絶運動に投ずる原動力になっています。

秋月辰一郎先生は、1992年10月14日に、長崎市内での反核医師の集いに参加した直後、持病の喘息発作に倒れ、不運にも意識不明となっておられましたが、映画の完成を見届けるかのように、2005年10月20日に永眠されました。

ものがたり

STORY

1945年長崎、美しいアンゼラスの鐘が時を告げる浦上天主堂近くに建つ浦上第一病院は、戦時下で疲労した市民にとって心身ともに頼りとなる存在でした。

病院に迎えられたたった一人の医師・秋月辰一郎は、その誠実な人柄で患者や病院関係者たちの信頼と敬愛を得ていきます。

広島に投下された新型爆弾の威力が伝わり、戦況を案じ始めている時、長崎上空にB29爆撃機が密かに近づいていました。8月9日11時2分、松山町上空に新型爆弾が再び投下されました。真っ白な閃光を発生し、一瞬にして、町とそこで生活していたあまたの人々を焼き尽くしました。天主堂は破壊され、炎上し、アンゼラスの鐘は吹き飛ばされ、瓦礫の中に埋もれました。

かろうじて生き残った秋月と浦上第一病院の人々は互いに助け合い医療救援活動に立ち上がります。しかし、その手に残されたのは粗末な器具とわずかな医薬品のみ。手のほどこしようもなくバタバタと倒れていく患者たちを前に、秋月たちは立ちすくみ、時として無力感に襲われます。

死を宣告された町、長崎。それでも秋月たちは共にとどまり、懸命に活動をするのでした。

ふたたびアンゼラスの鐘が長崎の空に響きわたる「復活」の時を信じて…

(カラーヴィスタサイズ80分)

人間が開発し、人間が実験し、人間が実行した原爆投下。人類史上かつてないほど凄惨な経験を強いられたヒロシマ・ナガサキ。

あの夏の日から

核兵器は世界に拡散しつづけています。

21世紀の今、被爆地長崎からあらためて

「世界のどこにも二度と原子爆弾を落してはならない」というメッセージを

この映画を通して世界の人々に伝えたい。

人間がつくったものなら、人間の力で

なくすこともできる——という希望を込めて。



■英語字幕版、日本語字幕版が完成。外国語版の製作をさらに目指し、世界中の子どもたちに届ける計画です。

平和を考える市民映画会

11月6日(日) 午後1:30 開演

筑西市生涯学習センター ペアーノ(関城支所隣)

・平和朗読劇 はらんきょうの会

・NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘 (上映作品)

■主催 筑西市 ■後援 筑西市教育委員会 ●問い合わせ先 筑西市総務課 TEL24-2111(内線332)

入場無料